

花かごとたいこ

小川未明

青空文庫

ある日たけおは、おとなりのおじさんと、釣りにいきました。おじさんは、釣りの名
人でした。いつも、どこかの川でたくさん魚を釣つてこられました。

たけおは、こんどぜひいつしょにつれて、いつてくださいとおねがいしたところ、ついに、
そののぞみをたつしたのでした。

電車でんしゃをおりて、すこし歩くと、さびしいなか町まちに出ました。

それを通りぬけてから、道は、田んぼたんぼの方ほうへとまがるので、この角かどのところに、小さな店みせがありました。

「ちよつとまつてて。」と、いつておじさんは、その家いえへはいり、たばこをお買いになりました。またそこには、いろいろと釣りの道具どうぐも売つていたので、おじさんは針はりや浮きなどを見ていらつしやいました。

たけおは、ぼんやりと前に立つて、あちらの高い木の若葉わかばが、大空おおぞらにけむつているのを、心から、美しいと思つて、ながめしていました。

そのうち、ふと気づくと、店のちよつとしたかざりまどのところへ、二つならんだお人にん形ぎょうが、目にはいりました。かわいらしい女の子と、ぼうしをかぶつた男の子で、女の

子は、花かごをもち、男の子は、たいこをたたいていました。日本の子どもらしくない、西洋の子どものふうをしていました。

「船できた、お人形かしらん。」と、考へていると、ちょうど、おじさんが出ていらしつて、「おまちどおさま。」と、たばこをくわえて、にこにこしながらおつしやいました。そして、先に立つてお歩きになつたので、たけおもあとについて、かげろうのあがる田んぼ道をいきました。そこここに、つみ草をする人たちがありました。やつと川のそばへ出ると、なみなみとした水が、ゆつたりとうごいて、日の光をみなぎらせていました。

そして、わすれていたなつかしいにおいを、記憶によみがえらせました。

それから二人が、草の上へこしをおろしました。じつと、川のおもてをみつめていると、青い水の上へ、緑色の空がうつりました。

いつしかたけおは、まだ自分の知らない、遠い外国のことなど空想しました。すると、さつきのかわいらしい人形のような子どもが、そこであそんでいるのが、目にうかびました。また自分がいけば、いつでもお友だちになつてくれるような気がしました。たけおは、そう思ひだけで、うれしさとはずかしさで、顔があつくなるのでした。

パチパチと水のはねる音がして、銀色の魚がさおの先でおどつて空想は、やぶられました。このときおじさんが大きなふなを釣られたのでした。

この日おじさんは、釣られた魚を、みんなたけおのびくに入れてくださいました。たけおは、自分は釣れなかつたけれど、大漁なので、大よろこびでした。
 帰りにもう一度あの 人形を見られると思つたのが、道がちがつて、ほかの場所から電車にのつたので、ついに、人形のある店の前を通りなかつたのです。
 電車にのつてからおじさんに、たばこを買った店で、舶来の人形を見たことを話すと、

「なあにあれば、ざらにある安物だ。」と、おじさんは、気にもとめられませんでした。
 物知りのおじさんのことばだけに、たけおは、じきあの 人形を、ほしいと思うのをあきらめてしまつたが、どこか遠い花のさく野原を、花かごをもつた美しい少女と、たいこをたたく男の子が、いまでも歩いているような気がして、そう思うだけでも、なんとなく自分は、たのしかつたのであります。

青空文庫情報

底本：「定本小川未明童話全集 14」講談社

1977（昭和52）年12月10日第1刷発行

1983（昭和58）年1月19日第5刷発行

底本の親本：「みどり色の時計」新子供社

1950（昭和25）年4月

初出：「小学一年生」

1948（昭和23）年4月

※表題は底本では、「花《はな》かど」とたゞ」となつてます。

入力：特定非営利活動法人はるかぜ

校正：酒井裕一

2018年12月24日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（<https://www.aozora.gr.jp/>）で作成

れました。入力、校正、制作にあたつたのは、ボランティアの皆さんです。

花かごとたいこ

小川未明

2020年 7月18日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>